

すいかの炭腐病（新発生）

令和3年6月上旬、上川地方のハウス栽培すいかにおいて、収穫間際の株が急激に枯れ上がる症状が見られた。被害株の細根は褐変腐敗し脱落しやすく、表皮内に0.1mm未満の垂球形から楕円形の黒点がみられた。維管束の褐変やヤニの噴出などはみられなかった。根からPDA平板上で白色の菌糸を生じ、のち培地表面に微小菌核を形成するため、菌そうが黒色となる糸状菌が分離された。分離菌は10~40℃で生育し、最適温度は35℃であった。これらの生態・形態的特徴および塩基配列解析の結果、本病原菌は *Macrophomina phaseolina* (Tassi) Goid スイカ炭腐病菌と同定された。分離菌をすいかの苗に接種したところ、原病徴が再現され接種菌が再分離された。

（上川農試）



すいかの炭腐病（左：発病株、右：細根に形成した黒点）（上川農試 長濱 原図）